高等学校地理歴史科
「地理総合」における
探究的な学びのための
授業づくり

～主体的な学びに向かうために～

令和５年度　地理歴史（地理総合）ツールキットの構成（60分）

- １　研修のねらい
- ２　Ｃ⑵で期待される生徒の探究する姿（Ｃ⑵の手順）
- ３　研究授業の概要
- ４　研究授業の内容
- ５　研究授業の流れ
- ６　研究授業の考察
  - (1) 仮説１
  - (2) 仮説２
  - (3) 仮説３
- ７　最後に

説明10分

協議・演習45分

説明５分

1　研修のねらい

○　これからの時代に求められる資質・能力

「持続可能な社会づくりの観点から 地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度」

○……地理歴史科、公民科では、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、**持続可能な社会づくりの観点から 地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度**など、**国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められる**。

※平成20、21年改訂の学習指導要領における課題

（出典）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史編

1　研修のねらい

○　大項目Ｃ「持続可能な地域づくりと私たち」のねらい

国内外の防災や生活圏の地理的な課題を主な学習対象とし、地域性を踏まえた課題解決に向けた取組の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な地域づくりを展望すること

1　研修のねらい

○　中項目Ｃ⑵「生活圏の調査と地域の展望」の内容

ア　次のような知識を身に付けること。
（ｱ）　生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。
イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
（ｱ）　生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

1　研修のねらい

○　指導計画の作成と指導上の配慮事項

この科目のまとめとして位置付けられる大項目Ｃの「⑵生活圏の調査と地域の展望」においては、それまでの学習成果を活用して、生活圏が抱える地理的な課題を捉え、作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れながら、その解決に向けた取組などについて考察、構想する中で、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの学習活動を充実することが大切である。

1　研修のねらい

「持続可能な社会づくりの観点から 地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度」

ゴール

探究単元C⑵「生活圏の調査と地域の展望」において、学習者が、より質の高い課題を見出すこと

● 中単元C⑵「生活圏の調査と地域の展望」において、学習者が、より質の高い課題を見出すためにはどのようなアプローチが必要となるか、という視点での授業改善を推進する。

2　C⑵で期待される生徒の探究する姿（C⑵の手順）

○　地理総合の科目の構造

大項目Cの中項目⑵「生活圏の調査と地域の展望」は、この科目のまとめとして位置付けられている。**これまでの学習成果を活用しながら**、**生徒が生活圏に見られる課題を自ら設定**し、情報の収集、整理・分析を行って、立てられた仮説を検証してまとめる一連の活動の中で、新たな発見や理解の深化を見いだし、改めて仮説や場合によっては課題を設定し直し、情報の収集、整理・分析を行っていく**「探究する手法」を理解し、身に付けることが求められている**。

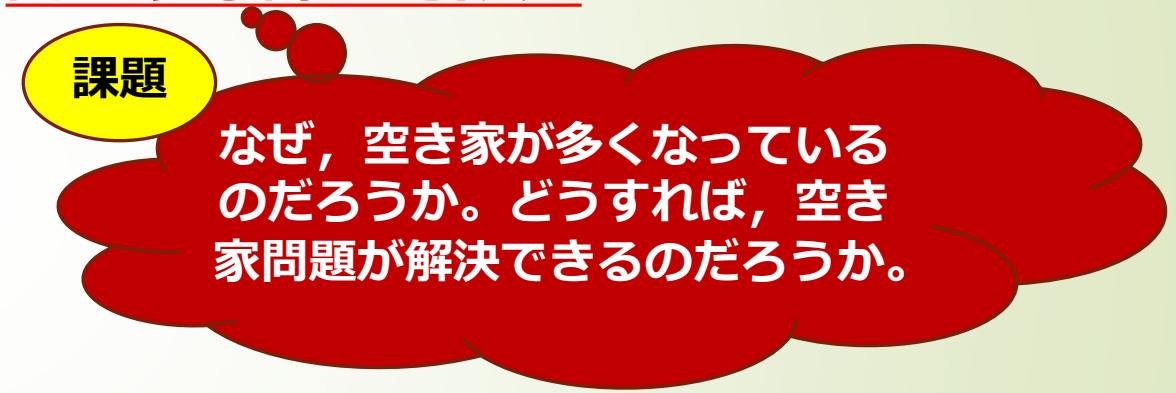
C⑵において、生徒が生活圏の地理的な課題について探究を行う学習が充実するよう、A⑴～C⑴の学習を進めるという考え方が重要です。

（出典）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史編

2　C⑵で期待される生徒の探究する姿（C⑵の手順）

1　課題の設定

これまでの「地理総合」の学習内容と、小・中学校社会科の「地域調査」の経験を踏まえて**調査する課題を設定**する



2　課題の探究

①事前調査（デスクワーク）

地域の概要や調査の全体像を大観するため、図書室にある書籍、新聞やインターネットなどから入手した資料を基に情報収集を行う

2　C⑵で期待される生徒の探究する姿（C⑵の手順）

②仮説の設定と調査計画の作成

収集した情報を整理・分析し、**課題意識に基づいた仮説を設定**し、これを検証するための調査項目や調査対象、調査方法などを吟味し、**現地調査の計画**を立てる

課題

農村だけではなく都市でも空き家が発生しているのはなぜだろうか。

仮説

大都市でも都心などに新しく高層の集合住宅が建てられていることで，都市内部での転居者が増大していることから空き家が増えたのではないか

2　C⑵で期待される生徒の探究する姿（C⑵の手順）

③現地調査（フィールドワーク）

調査の目的や聞き取りしたい事項について整理した上で、事前に立てた調査計画に基づき、**現地調査を実施**する

④整理、分析（仮説の検証）

現地調査で収集した資料や聞き取りを行った内容をまとめ、分かったことを整理し、**仮説の妥当性を検証**しつつ、不十分な点については追加調査を行った上で、**場合によっては仮説の修正や新たな課題設定**を行う

得た情報や資料を地図化し、それを基にして図表を作成

→ A⑴～C⑴で身に付けた資質・能力を発揮させる

2　C⑵で期待される生徒の探究する姿（C⑵の手順）

3　発表

調査内容を発表し、さらに調査結果を受けて、課題解決の方策を全体で討論し、方策の評価を行い、**地域を改善するための提言としてまとめる**

調査過程の説明や課題と解決に向けた提言をする機会を設ける
- **取材先への謝辞、報告**
- **文化祭での発表**
- **学校ホームページへの公開**
- **地域の行事などでの発表や意見交換　等**

「地理総合」のまとめとなるこの中項目の学習は、生活圏の課題の解決に向けた取組を考察、構想することで、日本や世界の諸課題を考察し、本の国土像を探究する「地理探究」での学習とも結び付く位置付けとなる。

３　研究授業の概要

１　科目名　地理総合

２　単元名　理想の生活圏を考えよう
【中項目Ｃ⑵ 生活圏の調査と地域の展望 】

３　本　時　生活圏に見られる課題の設定

４　ねらい

・生活圏の理想と現状のずれや隔たりを考察することを通し、学習者が地域社会の持続性に着目し、深刻さや重要性といった根拠を基にした適切な課題を設定する。

４　研究授業の内容

(1) 研究授業のテーマ

探究単元C⑵「生活圏の調査と地域の展望」において、学習者が、より質の高い課題を見出すためにはどのようなアプローチが必要となるか。

(2) 本時のねらい（再掲）

生活圏の理想と現状のずれや隔たりを考察することを通し、学習者が地域社会の持続性に着目し、深刻さや重要性といった根拠を基にした適切な課題を設定する。

(3) 身に付けさせたい資質・能力

・探究の手法について理解し、適切な問い（課題）を立てる（設定する）ことができる。【知識・技能】

・地域社会の持続性に着目し、深刻さや重要性といった根拠を基にした問いとなるよう多面的、多角的に思考し、表現することができる。【思考・判断・表現】

5　研究授業の流れ

○　研究テーマ（再掲）

**　探究単元C⑵「生活圏の調査と地域の展望」において、学習者が、より質の高い課題を見出すためにはどのようなアプローチが必要となるか**

○　３つの研究仮説

＜マクロなアプローチ（年間を通したアプローチ）＞
仮説１　年間を通した「問い」の提示
仮説２　前単元（B：国際理解と国際協力）における「プチ探究」
＜ミクロなアプローチ（授業の進め方におけるアプローチ）＞
仮説３　３段階の課題設定プロセス

5　研究授業の流れ

○　３つの研究仮説

＜マクロなアプローチ（年間を通したアプローチ）＞
仮説１　年間を通した「問い」の提示
仮説２　前単元（B：国際理解と国際協力）における「プチ探究」
＜ミクロなアプローチ（授業の進め方におけるアプローチ）＞
仮説３　３段階の課題設定プロセス

仮説１
　年間を通した「問い」の提示がスムーズに課題を見出すことにつながるはずである。

5　研究授業の流れ

○　３つの研究仮説

＜マクロなアプローチ（年間を通したアプローチ）＞
仮説１　年間を通した「問い」の提示
仮説２　前単元（B：国際理解と国際協力）における「プチ探究」
＜ミクロなアプローチ（授業の進め方におけるアプローチ）＞
仮説３　３段階の課題設定プロセス

仮説２
前単元における「プチ探究」の実施によって、見通しを持ちながら課題を見出すことにつながるはずである。

5　研究授業の流れ

○　３つの研究仮説

＜マクロなアプローチ（年間を通したアプローチ）＞
仮説１　年間を通した「問い」の提示
仮説２　前単元（B：国際理解と国際協力）における「プチ探究」
＜ミクロなアプローチ（授業の進め方におけるアプローチ）＞
仮説３　３段階の課題設定プロセス

仮説３
段階的なプロセスによって質の高い課題を見出すことができるはずである。

【３段階の課題設定プロセス】
Step１　現状と理想のギャップから見出す
Step２　価値を見出す
Step３　他者と意見交換する

5　研究授業の流れ

(0) 前時の取組

①これまでの学習内容の振り返り

「各単元でどのようなことを学習したのか？」

②問いを生み出す（疑問に思う）ことの反復練習

「疑問の1000本ノック」

③「生活圏のちょっと気になるところ」について意見交換

「あなたの生活圏には、どのような地理的事象がみられるのか」

④単元全体に関わる問いを把握

【単元全体に関わる問い】
持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、その実現のために私たちはどのように関わることができるのだろうか。

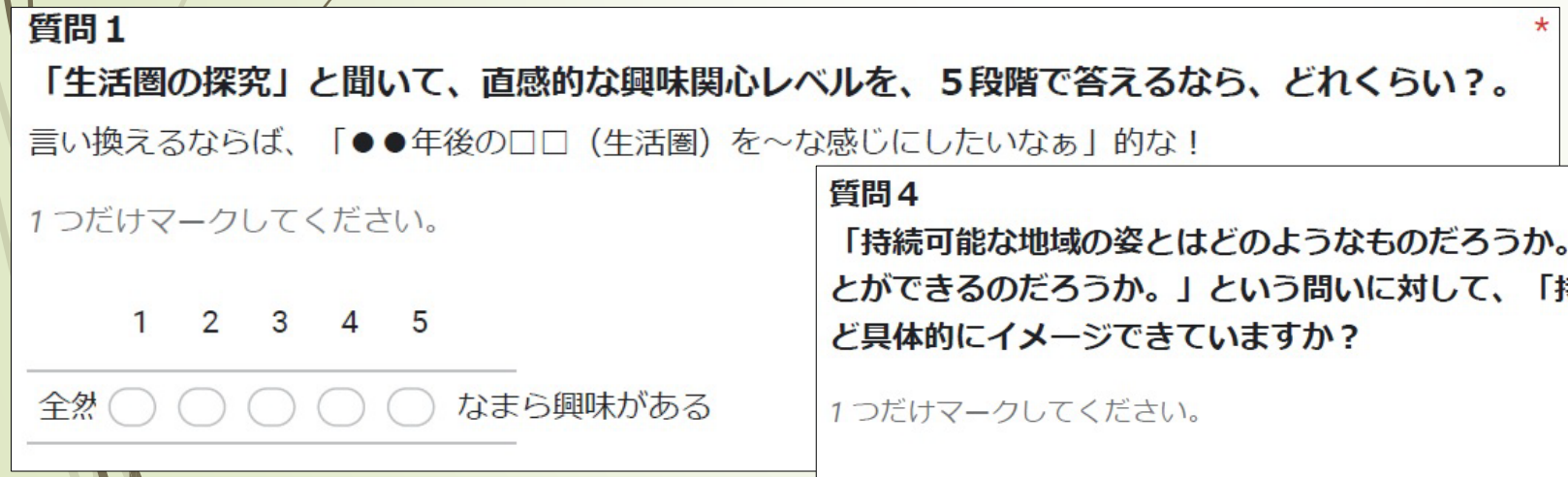
5　研究授業の流れ

(0) 前時の取組

⑤単元に関するアンケートを実施

・直感的な興味・関心レベルや探究の手法の理解度を記録

・学習改善につなげる評価として利用



質問１ *

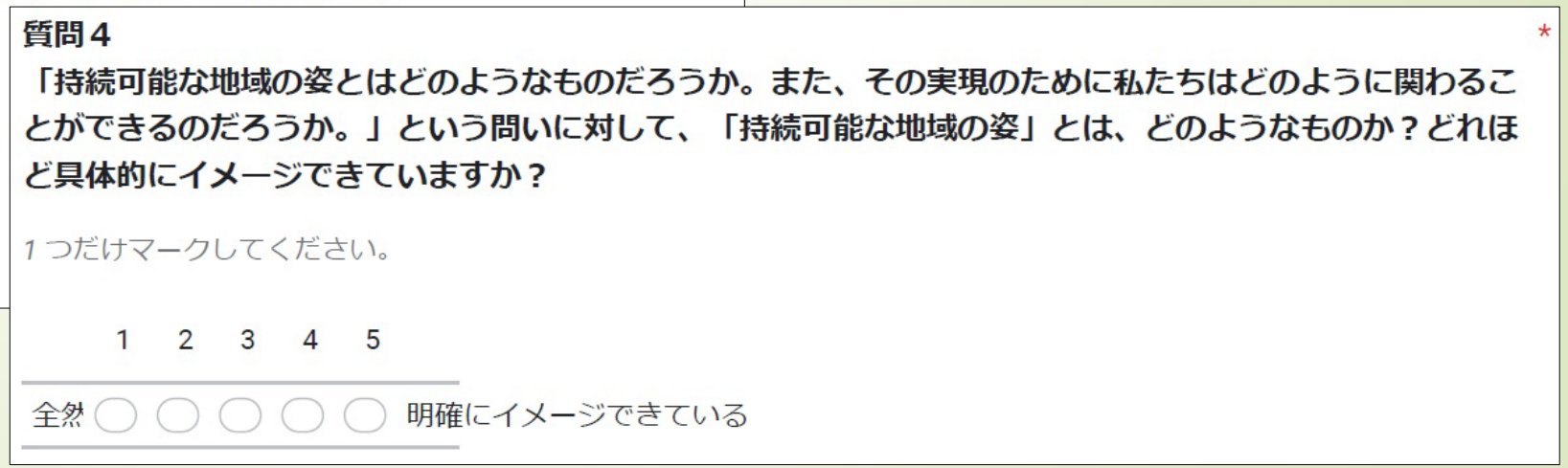
「生活圏の探究」と聞いて、直感的な興味関心レベルを、５段階で答えるなら、どれくらい？。

言い換えるならば、「●●年後の□□（生活圏）を～な感じにしたいなぁ」的な！

1 つだけマークしてください。

1　2　3　4　5

全然 ◯ ◯ ◯ ◯ ◯ なまら興味がある



質問４ *

「持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、その実現のために私たちはどのように関わることができるのだろうか。」という問いに対して、「持続可能な地域の姿」とは、どのようなものか？どれほど具体的にイメージできていますか？

1 つだけマークしてください。

1　2　3　4　5

全然 ◯ ◯ ◯ ◯ ◯ 明確にイメージできている

5　研究授業の流れ

(1) 導入

○本時の問いの確認（学習の見通し）

【本時の問い】
私たちの地域はどのように変化し、どのような課題がみられるのだろうか。

(2) 展開１

【３段階の課題設定プロセス】
Step１　現状と理想のギャップから見出す

①課題の検討

・課題設定に向け、生活圏の理想と現状のずれや隔たりを考察

SQ1　あなたが「あこがれる」生活圏の姿、「可能性がある」と考える生活圏の姿は、どのようなものなのか【理想】
SQ2　あなたがみる、生活圏の現状はどうなっているのか【現状】
SQ3　あなたが捉えている、生活圏の「理想と現状」のずれや隔たりはどのようなものか

②課題の設定（第１段階）

・SQ3の解をもとに、解決したい課題を設定

5　研究授業の流れ

(3) 展開２

【３段階の課題設定プロセス】
Step２　価値を見出す

①課題の価値を省察

SQ4　設定した課題は、どんな価値があるか（そもそも価値があるか）
SQ5　その課題が解決されることで、幸福を享受するのは誰なのか
SQ6　課題が解決されていくことにわくわくする（期待できる）ものか
SQ7　そこに当事者として、自分はいるか（参画できるものか）
SQ8　持続可能性や実現可能性は考えられているか
SQ9　地理的な見方・考え方を踏まえたものとなっているか

②課題の設定（第２段階）

・SQ4～9の解をもとに、第１段階で設定した課題を修正

【３段階の課題設定プロセス】
Step３　他者と意見交換する

③課題とその価値を他者と議論

・自分が設定した課題とその価値をグループ内で発表し、意見交換を行い、必要に応じて課題を修正

5　研究授業の流れ

(4) まとめ

○本時の問いの解

・自分が設定した課題を確認し、本時の問いの解を理解する

SQ10　どうすればその課題は解決するのだろうか

・次回の活動「仮説の設定」に向かう問いを投げかける

Point!

学習者が研究仮説についてどのように効果を感じているかについては、インタビューで直接学習者から聞き取ることが有効です。

6　研究授業の考察

- **研究授業のねらい（再掲）**
  探究単元C⑵「生活圏の調査と地域の展望」において、学習者が、より質の高い課題を見出すためにはどのようなアプローチが必要となるか
- **本時のねらい（再掲）**
  生活圏の理想と現状のずれや隔たりを考察することを通し、学習者自身が課題を設定し、調査方法を計画することで地域調査の見通しを持つ

○　３つの研究仮説

仮説１　年間を通した「問い」の提示
仮説２　前単元（B：国際理解と国際協力）における「プチ探究」
仮説３　３段階の課題設定プロセス

→３つの研究仮説の中で、どの研究仮説が有効かを検証する

地理総合　年間指導計画(例)

	内容のまとまり 大項目	内容のまとまり 中項目【keyとなる見方考え方】	(まとまりを通して)身に付けさせるコンピテンシー	単元全体に関する問い	各次(時間)の主題	各次(時間)の問い
1	A 地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1) 地図や地理情報システムと現代世界 【位置や分布】	・地図や地理情報システムの役割や有用 性の理解 ・情報を収集し、読み取り、まとめる基 礎的・基本的な技能	地図や地理情報システムは、どのように活用できるだろうか？	球面上の世界	球面上の位置をあらわすためには、どうすればよいか？ー緯度・経度ー
2						時差があることによって、私たちの生活はどのように変化するだろうか？ー時差のしくみ・計算、時差の有効活用ー
3						なぜ、世界地図にはさまざまな図法が準備されているのか？ー3次元と2次元の「ひずみ」ー
4					国家の領域と領土問題	国家が成り立つための条件とは？ー国境の設定と領土問題ー
5						日本の領域は、どこまで、どのように設定されているか？ー日本周辺の領土問題ー
6					国内や国家間の結びつき	日本は世界とどのように結びついているか？ー人の移動と経済的な結びつきー
7						観光客はどのような時に、どのような場所に集まるか
8						交通と通信の発達で、世界はどのように変化したか？
9						身の回りの物資は、どのように移動し、私たちのところに届いているか？
10					日常生活のさまざまな地図 (単元全体に関する問いの答え)	どの場合に、どのような地図が便利か？
11						地図や地理情報システムは、どのように活用できるだろうか？
12	B 国際理解と国際協力	(1) 生活文化の多様性と国際理解 【場所】 【人間と自然環境との相互依存関係】	・人々の生活文化が地理的環境から影響 を受けたり、影響を与えたりして多様 性をもつこと、地理的環境の変化に よって変容することの理解 ・自他の文化を尊重し国際理解を図るこ との重要性の理解 ・多様性や変容の要因などを多面的・多 角的に考察、表現する力	世界各地の生活文化(衣食住)や社会構造は、どのような背景をもって形成されてきたのか？	地球上の地形のなりたち	地球の起伏、様々な地形は、どのようにして生まれたのか？
13						それぞれの地形を活かした暮らしとは？
14					地球上の気候のなりたち	世界各地の気候の違いは、どうして生まれるのか？ー気候因子・気候要素とケッペンの気候区分ー
15						自然環境は、私たちの生活文化にどのような影響を与えているだろうか？ー【事例】アフリカでの暑さに対応するための工夫
16					世界の衣食住(単元全体に関する問いの答え)	世界各地の生活文化(衣食住)には、どのような違いがあるだろうか？
17					農業の地域性と生活文化	農業地域はどのように生まれるのか？
18						【事例】南アジアの農業はどのように行われているか？
19					工業の地域性と工業による生活の変化	工業の発展は地域をどのように変えているか？
20						【事例】中国が「世界の工場」・「世界の市場」となった背景は？
21					世界の言語と宗教	世界にはどのような言語があるだろうか？
22						宗教は暮らしとどのように結びついているか？
23						【事例】ムスリムはどのような暮らしをしているのか？
24					グローバル化による成長と課題	多文化共生の社会は生まれるのか？また、そのような社会にはどのような課題があるだろうか？
25						【事例】ラテンアメリカには、国によって様々な人々がいるのはなぜだろうか？
26						【事例】アメリカはグローバル化により、どのように成長し、どのような課題が生じたのだろうか？
27					(単元全体に関する問いの答え)	世界各地の生活文化(衣食住)や社会構造は、どのような背景をもって形成されてきたのか？
28		(2) 地球的課題と国際協力 【空間的相互依存作用】 【地域】	・地球的課題の各地で共通する傾向性や 課題相互の関連性の理解 ・地球的課題の解決には持続可能な社会 の実現を目指した各国の取組や国際協 力が必要であることの理解 ・地球的課題について、現状や要因、解 決の方向性などを多面的・多角的に考 察、表現する力	地球的課題の根本的な原因と、その課題に対する対策にはどのようなことが考えられるか？	世界の人口問題	人口の急増によって、どのような課題が起こりうるか？
29						少子高齢化の原因と対策は？
30					世界の食料問題	人口と食料の適正な関係とは？
31						アフリカの食料問題を解決するには？
32					世界の居住・都市問題	なぜ都市に人口が集中するのか？
33						ロンドンやニューヨークとメキシコシティやジャカルタの都市問題の共通点と相違点は？
34					世界の資源・エネルギーに関する課題	エネルギー資源はどのように変わってきたか？
35						有限資源の石油の利用は今後どうなるか？
36						これからのエネルギーのあり方は？
37						資源を持つ国と持たない国、それぞれの現状と対策は？
38					地球環境問題	地球温暖化が与える影響は？
39						なぜ熱帯林は減り続けるのか？
40						乾燥地域では何が起こっているのか？
41					日本の地形・気候と生活	日本の自然環境の特徴はどのようなものだろうか？
42						風水害への対策はどのようなものが効果的だろうか？
43						
44						
45						
46						
47						
48		自然環境と防災	対応の重要性などについての理解			
49		【人間と自然環境との相互依存関係】 【地域】	・様々な自然災害に対応した情報を収集 し、読み取り、まとめる地理的技能 ・地域性を踏まえた防災について、自然 災害への備えや対応などを多面的・多 角的に考察、表現する力	自分たちが住む地域には、どのような課題があるのだろうか？(「防災」の視点から)	防災・減災への心構え	防災と減災に向けて、どのようなことができるだろうか？
50						
51						
52						
53						
54					(単元全体に関する問いの答え)	自分たちが住む地域には、どのような課題があるのだろうか？(「防災」の視点から)
55	C 持続可能な地域づくりと私たち	(2) 生活圏の調査と地域の展望 【空間的相互依存作用】 【地域】	・探究する手法の理解 ・生活圏の地理的な課題について、課題 解決に求められる取組などを多面的・ 多角的に考察、構想、表現する力	自分たちが住む地域には、どのような課題があり、どのような対応策が考えられるだろうか？ (「自分たちの住む地域」を題材として)	ガイダンス	探究活動とは？
56					関心領域の特定、課題(問い)の設定 リサーチ	生活圏の現状はどのようなものだろうか？
57						生活圏の理想像と現状を比較して、どのような課題(問い)と仮説が考えられるだろうか？
58					中間発表	課題状況を共有(多様な課題に注目したい)
59					情報収集	設定した仮説を検証するためには、どのような手段および情報が必要だろうか？ 実際に情報収集を行う)
60					ガイダンス	プレゼンテーション「相手に伝える」とは？
61					整理・分析	どのように情報を整理・分析すれば、相手に伝わりやすくなるだろうか？
62					まとめ・発表	効果的に相手に伝えるためには、どのような工夫が必要だろうか？
63					(単元全体に関する問いの解)	自分たちが住む地域には、どのような課題があり、どのような対応策が考えられるだろうか？
64						
65						
66						
67						
68						
69						
70						

(問い)私たちの地域はどのように変化し、どのような課題がみられるのだろうか

はどの

計画す

こ

6　研究授業の考察

(1)仮説１

年間を通した「問い」の提示がスムーズに課題を見出すことにつながるはずである。

●生徒の見出した課題

- なぜ○○区は治安が悪いと言われてしまうのだろうか
- どうしたら札幌の人に来たいと思ってもらえるだろうか
- なぜ○○（地名）は治安が悪くなってしまったのだろうか
- なぜ○○（地名）まで地下鉄を延ばすことができないのだろうか
- どうして札幌駅周辺には公園が少ないのだろうか
- なぜ○○市には広大な土地があるのに開発が進まないのか
- なぜ○○区を訪れる人は少なくなっているのだろうか
- なぜ「○○（地名）には何もない」と言われるのだろうか

6　研究授業の考察

- **研究授業のねらい（再掲）**
  探究単元C⑵「生活圏の調査と地域の展望」において、学習者が、より質の高い課題を見出すためにはどの

「地理」から考えるプチ探究

地理総合

(1) 5人1グループとなり、1人1テーマを持って探究を進めてください。　※ 5人で A～E の枠組み全てを網羅できるように担当分けをしてください。
(2) 最終的には、グループ内で情報共有し、知識の獲得を目指します。　※ その際の発表方法等も評価の対象とします。
(3) Google スライドを活用します。　※ スライド1枚に、ポスターを作るイメージで資料を作成してください。

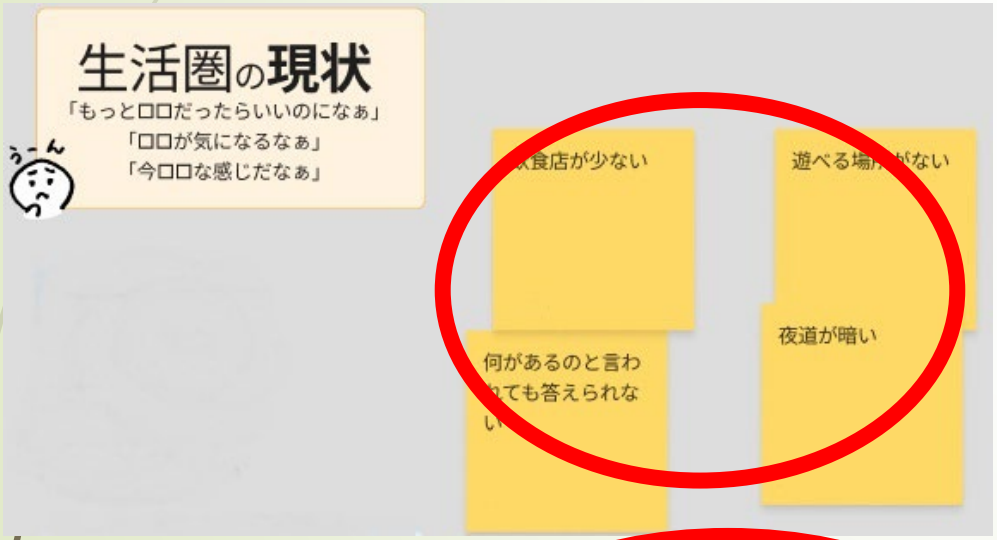
		テーマ	教科書上の問い（参考）
A	人口・食料問題	① 人口が増加した国の課題	人口大国、中国とインドの将来は？
		② 人口が停滞する国の課題	スウェーデンと日本、少子高齢化への対策は？
		③ 人口増加と食料問題	アフリカの食料問題を解決するには？
B	居住・都市問題	④ 大都市の地域性と課題	世界都市ロンドンとニューヨークの特徴と課題は？
		⑤ 人口が密集する都市の課題	メキシコシティとジャカルタの都市問題の解決は？
C	資源・エネルギー問題	⑥ エネルギー資源の生産・消費と課題	有限資源の石油の利用は今後どうなるか？
		⑦ 再生可能エネルギーへの移行	これからのエネルギーのあり方は？
		⑧ 鉱産資源の産出と消費	資源をもつ国、もたない国の取り組みは？
D	地球環境問題	⑨ 地球温暖化の現状・将来と SDGs	地球温暖化が与える影響は？
		⑩ 熱帯林の減少と SDGs	なぜ、熱帯林は減り続けているのか？
		⑪ 砂漠化の進行と SDGs	乾燥地域で何がおこっているのか？
E	自然環境と防災	⑫ 日本における風水害と防災・減災の心構え	風水害に備えるには？
		⑬ 日本における火山の噴火と防災・減災の心構え	火山災害に備えるには？
		⑭ 日本における地震・津波と防災・減災の心構え	地震や津波の災害に備えるには？
		⑮ 日本における都市型水害と防災・減災の心構え	都市型災害に備えるには？

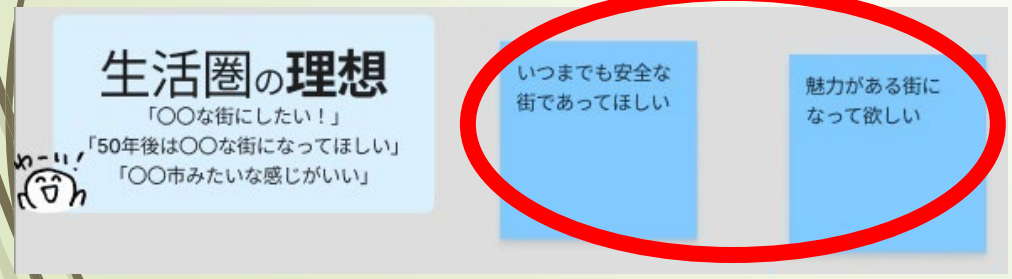
6　研究授業の考察

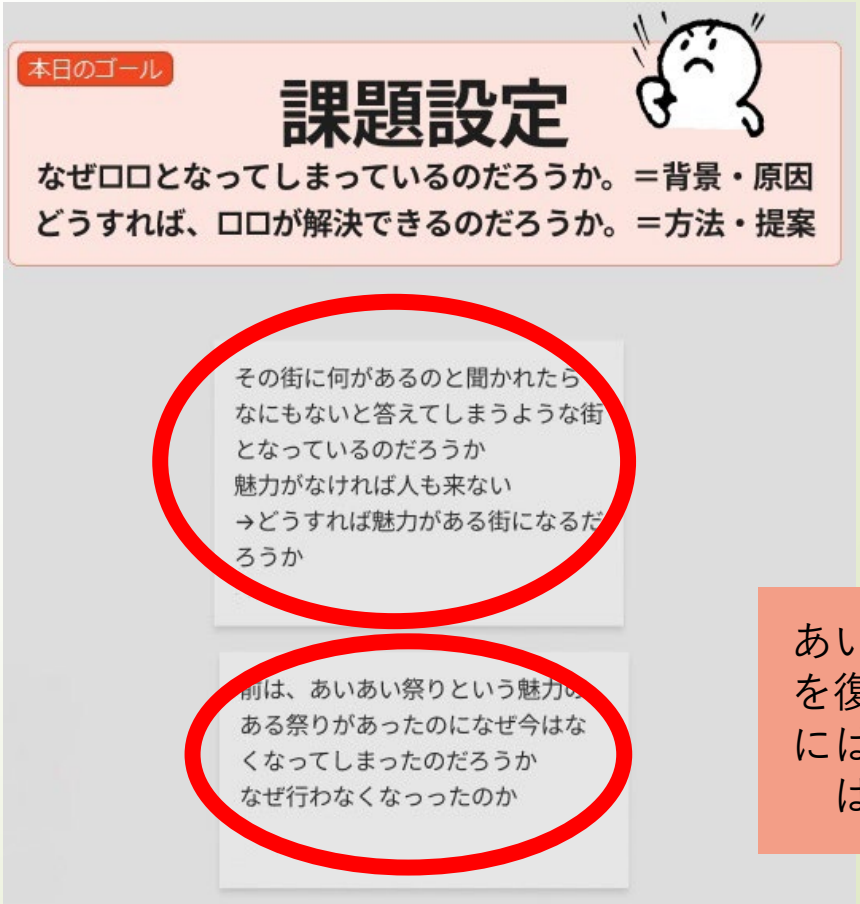
(2)仮説２

前単元における「プチ探究」の実施によって、見通しを持ちながら課題を見出すことにつながるはずである。

●生徒の表現







あいあい祭りを復活させるにはどうすればいいか

付箋やテキストボックスなどを用いて、思いついたことから記録していこう！

生活圏の現状

「もっとロロだったらいいのになぁ」
「ロロが気になるなぁ」
「今ロロな感じだなぁ」

・交通の便がもうちょっと範囲が広かったら便利

・娯楽施設がないため札幌まで行かなくちゃいけない

生活圏の理想

「〇〇な街にしたい！」
「50年後は〇〇な街になってほしい」
「〇〇市みたいな感じがいい」

・コストコが近くにできたからその流れで他の施設も建ててほしい

・「石狩といえばこれ！」というようなシンボルが欲しい

・雪で道が狭くなるから排雪車を増やして欲しい

本日のゴール

課題設定

なぜロロとなってしまっているのだろうか。＝背景・原因
どうすれば、ロロが解決できるのだろうか。＝方法・提案

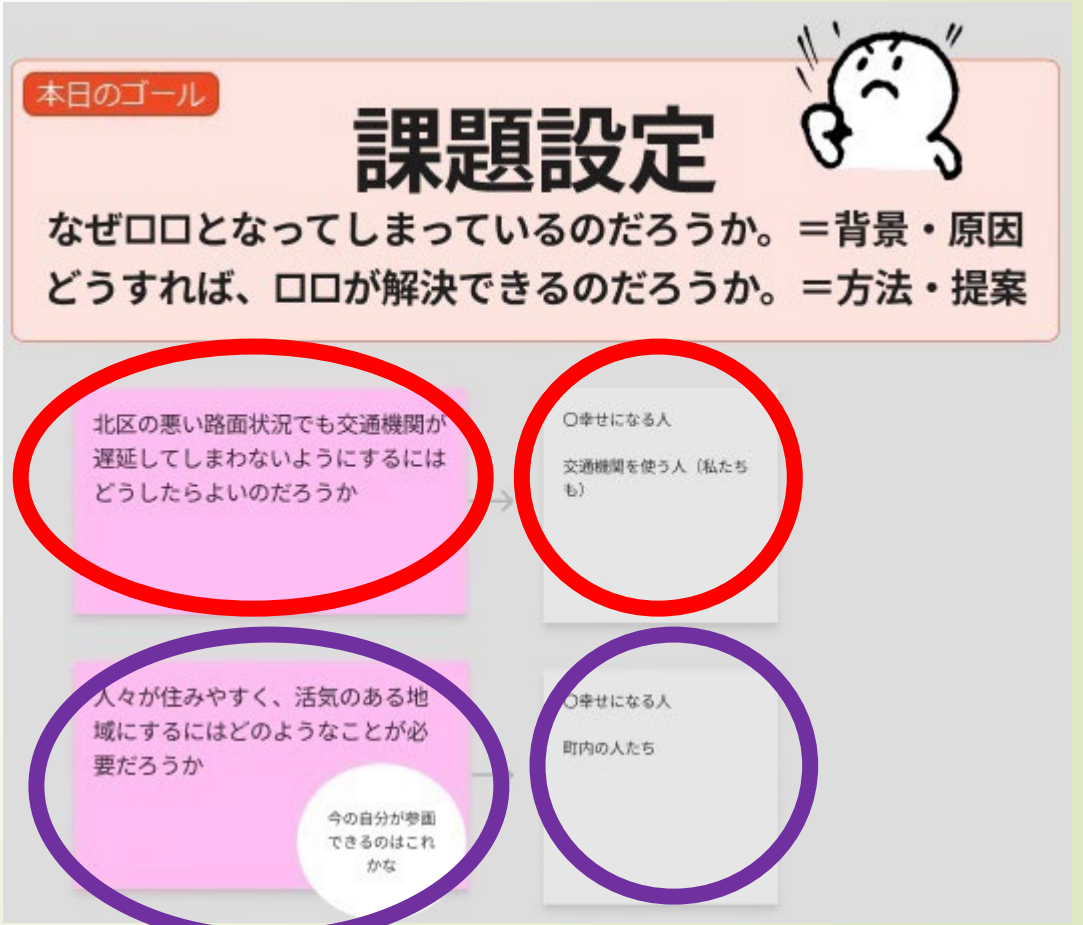
あなたの生活圏は？ ⇨ 石狩市

6　研究授業の考察

(3)仮説３

段階的なプロセスによって質の高い課題を見出すことができるはずである。

●生徒の表現



7　まとめ

● **中単元C⑵「生活圏の調査と地域の展望」において、学習者が、より質の高い課題を見出すためにはどのようなアプローチが必要となるか、という視点での授業改善を推進する。**

○**「学習者が、より質の高い課題を見出すための授業」についての一考察**

1　学習者がスムーズに課題を見出すことができるよう、**年間を通して「問い」を提示する**。

2　学習者が見通しを持ちながら課題を見出すことができるよう、**事前に「プチ探究」を実施する**。

3　学習者が質の高い課題を見出すことができるよう、**３段階の課題設定プロセス**（①地域の現状と理想のギャップから課題を見出す、②設定した課題に価値を見出す、③設定した課題について他者と意見交換する）**に沿って授業を展開する**。

制作・協力

北海道教育委員会　国立大学法人東京学芸大学